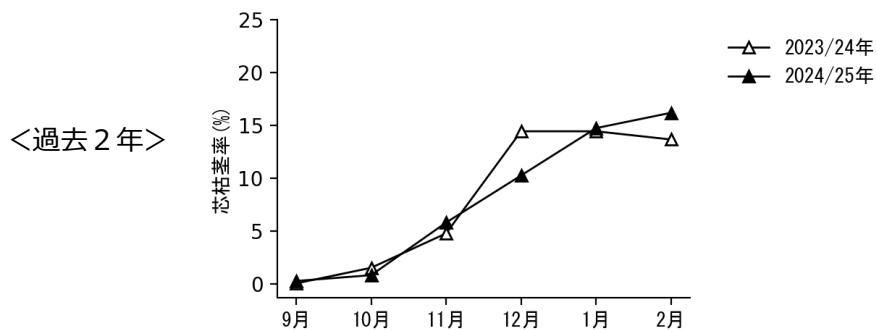
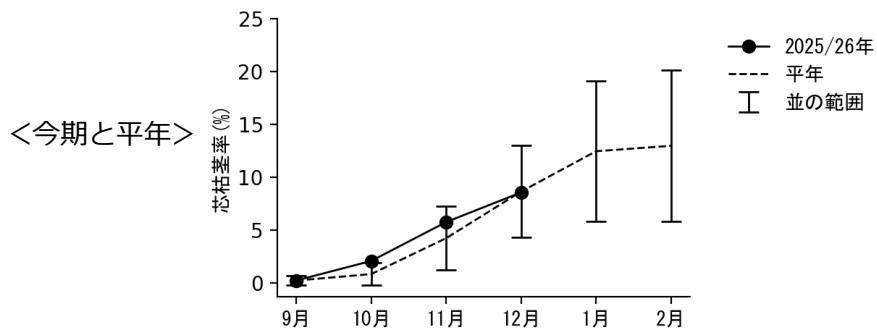


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	(1) メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

芯枯茎率の推移 (夏植え)



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ (83%) 、イネヨトウ (17%)
- ・発生ほ場率100% (平年 : 93.5%) ※一部ほ場で多発

防除のポイント

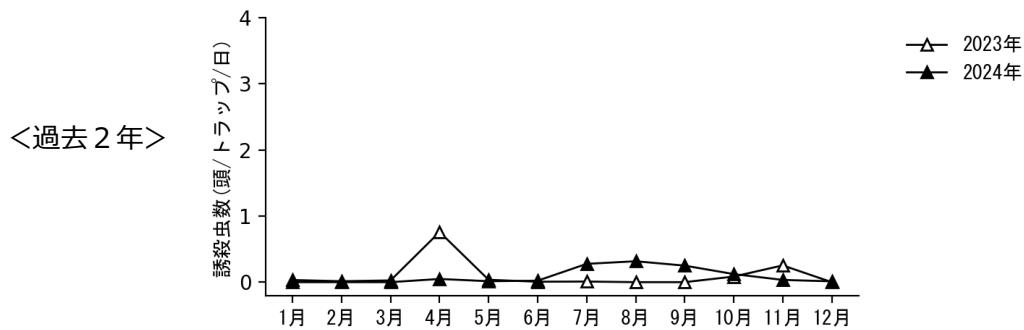
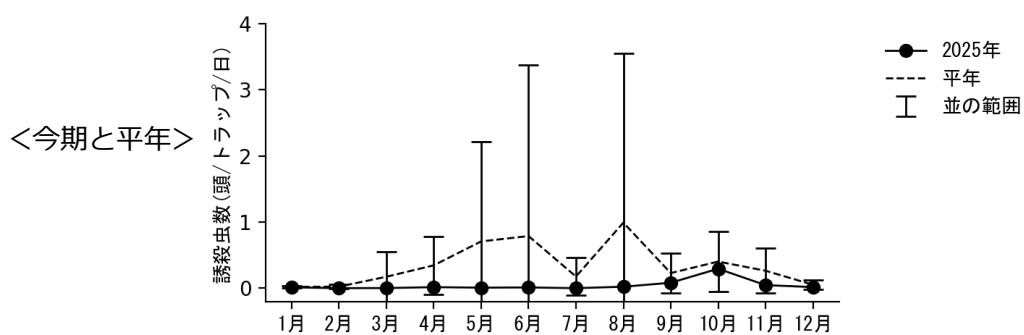
- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壤害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。



作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	12 月からの増減傾向	→		
1 月の発生量 (平年比)		並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



- ・発生施設率40.0% (平年: 29.7%)

防除のポイント

- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・出蓄・開花期における本種の増加を抑制するため、ビニール被覆前後に予防散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

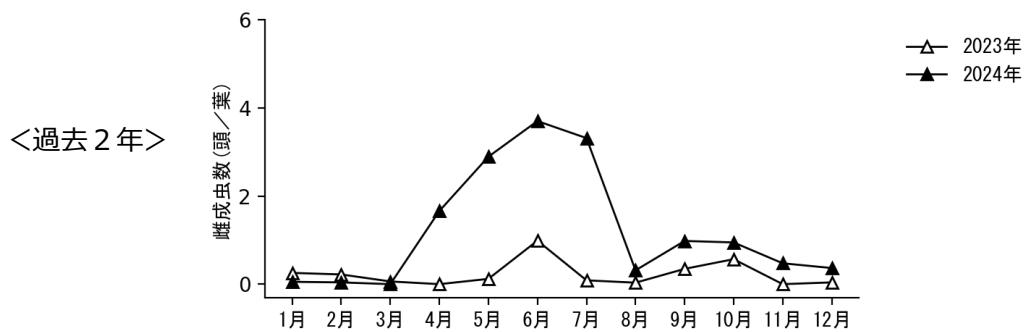
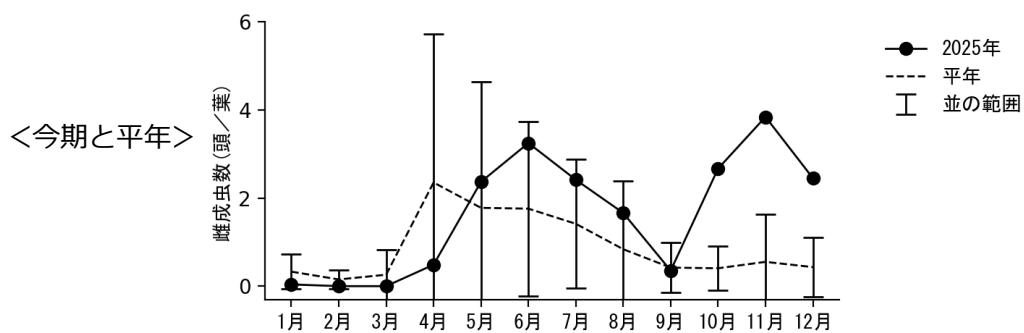


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：マンゴーツメハダニ、シュレイツメハダニ
- ・発生施設率75.0% (平年：33.9%) ※一部施設で多発

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

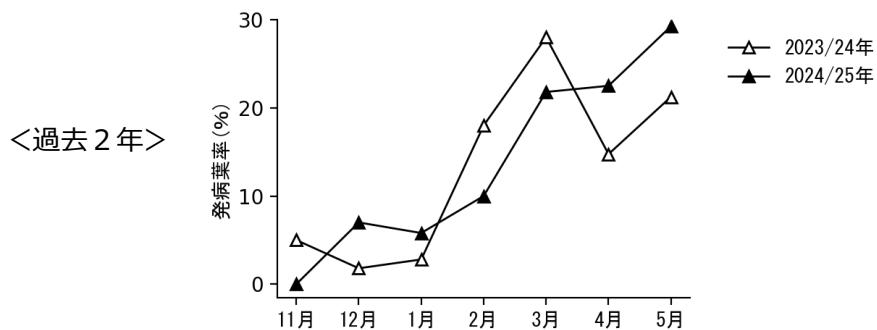
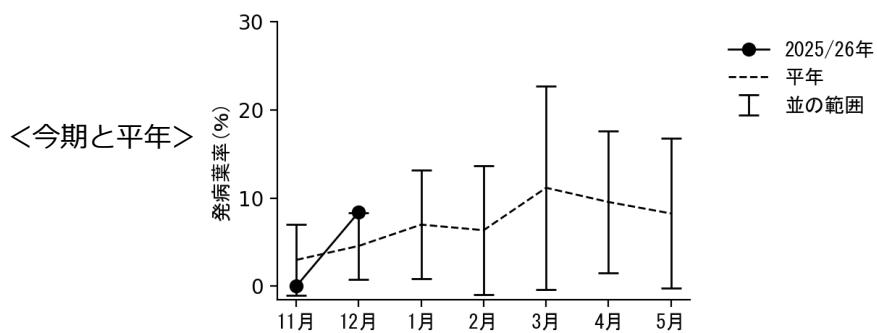


シュレイツメハダニ

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率60.0% (平年: 49.1%) ※一部施設で多発

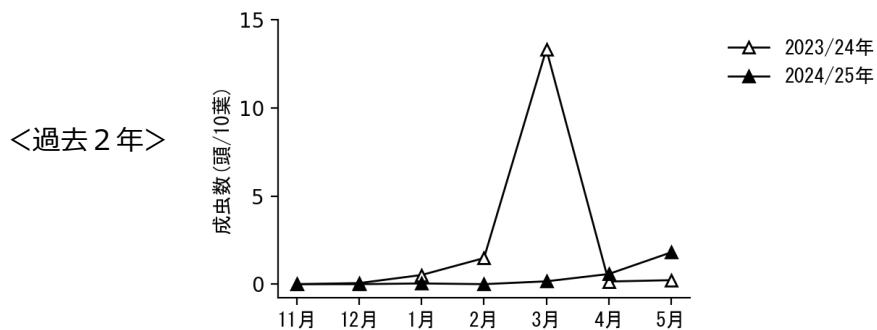
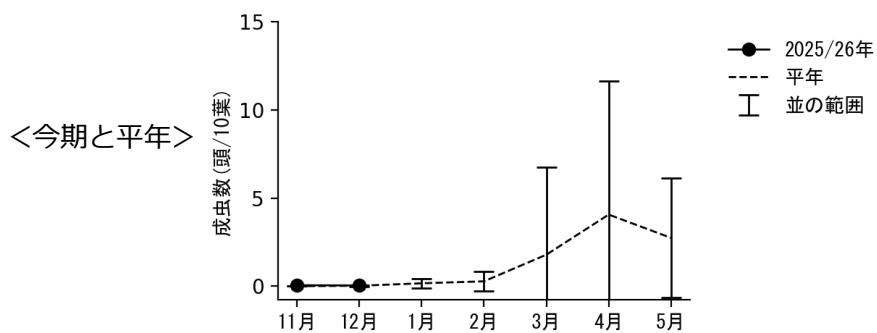
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	(2) タバココナジラミ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年: 10.9%)

防除のポイント

- 多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- 施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- 黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- 幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

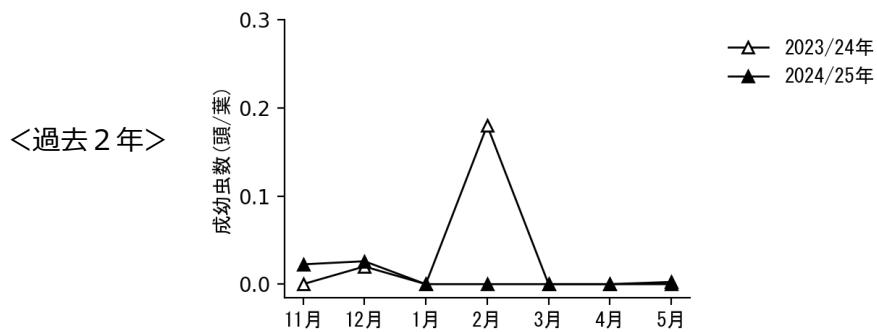
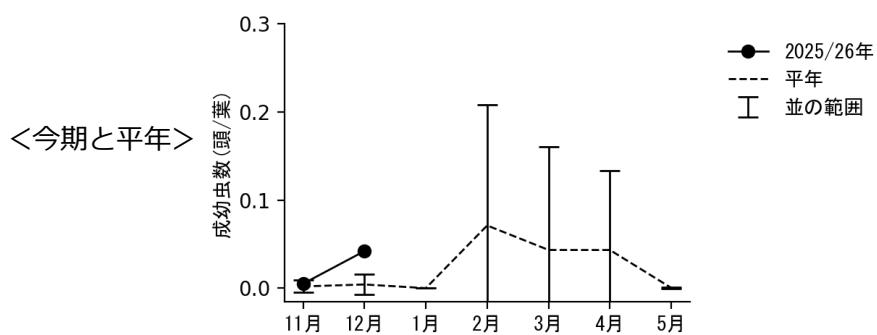


幼虫

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	(3) アブラムシ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	↓	
	1 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生施設率20.0% (平年：3.6%) ※一部施設で多発

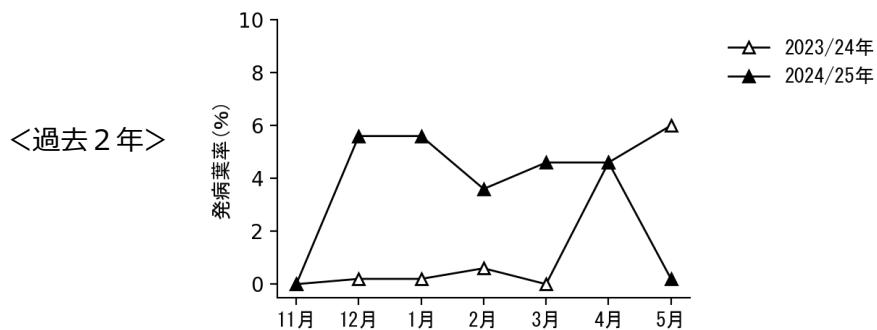
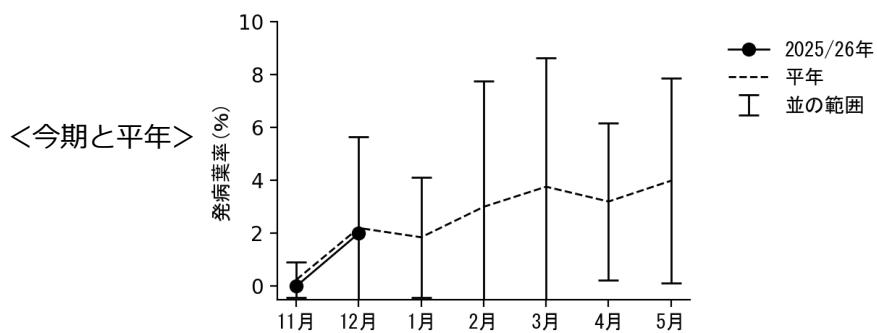
防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	(1) うどんこ病			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率60.0% (平年: 30.0%)

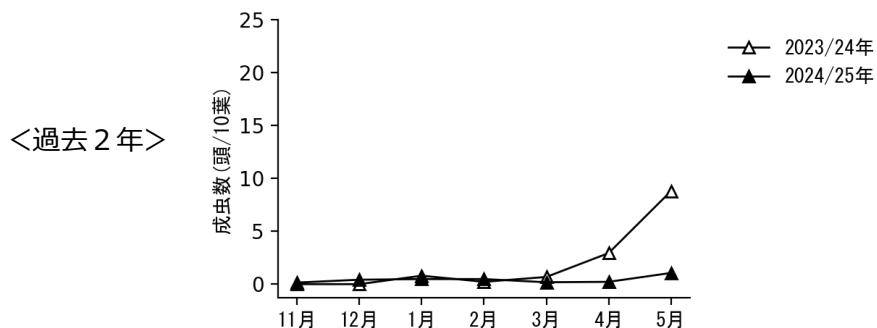
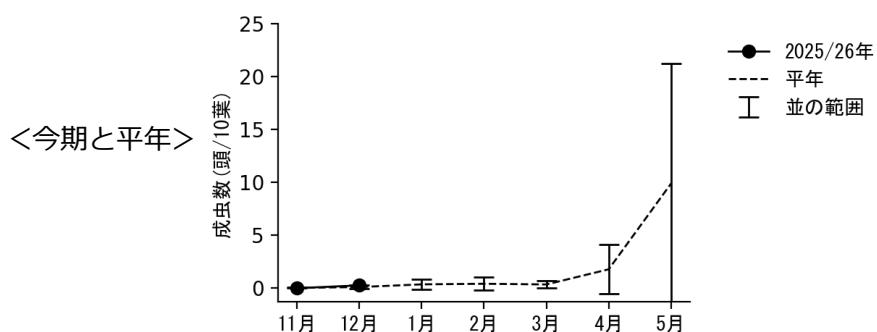
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	(2) タバココナジラミ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率60.0% (平年: 10.0%)

防除のポイント

- 多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- 施設の出入口は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- 黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- 幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

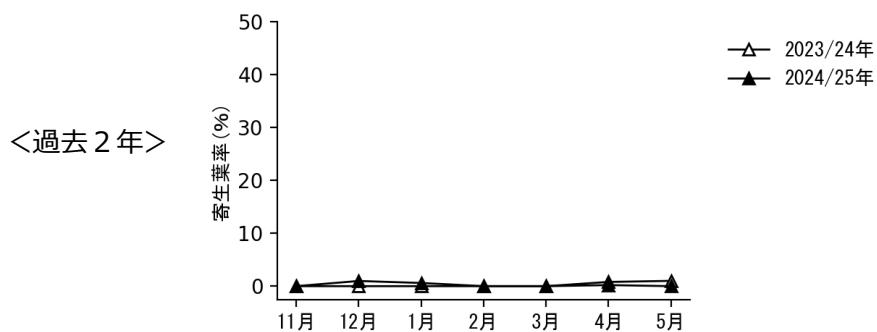
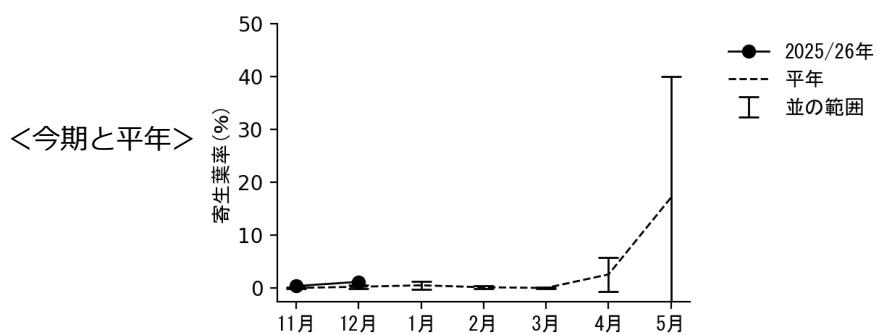


成虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：トマトハモグリバエ
- ・発生施設率40.0% (平年：16.7%)

防除のポイント

- ・発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。

幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)

